【広報文化財コラム「一宮の歴史特集」㉗】

令和2年4月号

一宮町の歴史特集
「一宮町ゆかりの人々⑲」
統子内親王（1126～89）

かつて一宮地域には、中世にかけて玉前神社を中心として「一宮（玉前・崎）庄」と呼ばれる庄園がありました。この一宮庄の範囲は資料から読み解くと現在の一宮町全体から西は睦沢町の旧土睦村地域、南はいすみ市の椎木地域、北は長生村・白子町の大部分に広がり、一部茂原市にまで広がっていたようです。

では、一宮庄の名前が見られるのはいつごろからでしょうか。現在のところ、平安時代末頃の資料である「宣陽門院覲子内親王所領目録」（「島田文書」所収）という古文書にその記載が見られるのが初見のようです。この古文書には「上西門院」という人物から宣陽門院に新たに与えられた所領として、「上総国玉崎庄」の記載があります。

上西門院とは誰でしょうか。これは院号と呼ばれるものであり、統子内親王のことを指します（上西門院の名称の方が著名なので、ここではこの名称を使います）。上西門院は平安時代の皇族で、鳥羽天皇（1103～56）の第2皇女です。大治元年（1126）に内親王宣下され、保元4年（1159）に院号宣下、永暦元年（1160）に出家し、文治元年（1189）に64歳で崩御しました。一部の記録によれば、幼少時から並ぶ者のない美貌の女性だったといいます。

この古文書から、玉前（崎）庄は元々上西門院の所領であり、それが宣陽門院に譲られたことがわかります。

上西門院にしても宣陽門院にしても彼女たちが一宮に来た可能性は限りなくゼロに近いでしょう。あくまでも皇族の庄園（私有地）という面が大きいと思われます。しかし、このような古文書に記録があることで、私達は郷土の歴史の古さを知ることができるのです。

▲ 一宮庄の範囲（『中世の一宮』一宮町教育委員会、2004年）より

【問合せ】教育課 ☎(42)1416（教育委員会 江澤一樹）

令和2年5月号

一宮町の歴史特集
「一宮町の文化財⑲」
旧斎藤家住宅（店蔵・主屋・土蔵・稲荷社）

国道128号線沿いに店蔵を構える旧斎藤家住宅。現在はカフェやレンタルスペースとして活用されています。

斎藤家は、明治時代以降、鰹節を中心とした海産物問屋を営んでいました。幕末の斎藤長兵衛は一宮本郷村（現一宮町字一宮の一部）の村役人をつとめ、明治初期には戸長もつとめています。次代の孝祐は町会議員をつとめ、加納久宜町長時代の一宮町政を支えています。

店蔵と主屋は連結しており、土蔵は経年劣化が激しいため、現在はトタンで覆われています。稲荷社は龍の彫刻が施されており、刻銘から現在のいすみ市の彫工・長谷川三之輔の作品であることがわかっています。

これらの建物はいずれも明治30年（1897）頃の建築と推定されています。

旧斎藤家住宅の店蔵・主屋・土蔵・稲荷社の4件は平成28年6月に国の登録有形文化財に登録されています。

なお、この家からは平成26年、令和元年の2回に渡り大量の古文書が発見されています。江戸時代から昭和時代初期にかけての貴重な資料群であり、一宮の歴史を語る、重要な文化遺産です。

▲ 店蔵（背後に主屋が連結）

▲ 土蔵

▲ 稲荷社

【問合せ】教育課 ☎(42)1416（教育委員会 江澤一樹）